

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成17年7月(2005年) No.475

「紀州へら竿の里」撮影会無事終了

今年は何年ぶりかで、モノを作る工程をからませた撮影会をと、和歌山県橋本市で、紀州へら竿製造組合長の魚集工房の全面的なご協力のもと、14名が参加され、撮影へ出かけてきました。日程は先方の都合に合わせていたので、6月中旬は梅雨に入りそうなので、雨が心配でしたが、どうやら今年には空梅雨らしく、曇ってはいましたが、まずまずのお天気でした。撮影は順調に進み、用意して頂いていた製造工程のうち、大事な火入れの場面や握り部分の造り、穂先削り、漆塗りなどの工程が3人づつ5班にわかれて交代で無事撮影することができました。

その夜は温泉宿でゆっくりと湯につかり、宴会のビールでのどをうるおし、部屋へ帰ってから遅くまでビデオ談義に花を咲かせました。

2日目は、へらぶな釣池へ行き、釣人たちの姿を心ゆくまで撮影、昼食の後、2時過ぎには橋本駅にて散会しました。

さあ、ロケハンのときの映像と、今回の本番映像とを、どううまく組み合わせる作品にするか、ウデの見せどころです。トップシーンとラストシーンをどの場面にするかで、作品のイメージも変わってきます。特に、出来るまで映像にするには全工程を撮影しているわけでもなく中途半端ですし、出演者も、城さんと、その息子さん(ロケハンの時火入れをしていた人で現在の組合長)、お孫さん(手伝っていた)、和彦工房の田中さんと関係者が4人もいて人物を絞れないということもあります。そこは OMC 会員諸氏のこと、それぞれがどう作品としてまとめられるか楽しみです。

■撮影会作品コンテストは8月5日(金曜日)18時30分より
 例会場で

今回は例会日ではありませんので、会場へ出席して頂いた会員全員による1人3票の互選で入賞作を決定。当日は出品者以外の会員諸氏の参加歓迎です。ぜひ多数の会員のご出席を期待します。

7月例会のお知らせ

7月例会は23日(第4土曜日)18時より難波市民学習センターにて開催します。7月例会までの作品で公開映写会の作品選定を行いますので、フェスティバルに出したい作品どうぞお持ちを。

作品研究会に珍客お出まし -虹色ちんどん座長さん-

6月例会日の午後に行われた作品研究会に、アマチュアのちんどんグループの座長をしておられる山口年子さん(高槻市)がお見えになられ、拍手で歓迎いたしました。岡本さんが東大阪市のふれあい祭りで、ちんどんグループを撮影された縁で来て頂いたという次第。お聞きすると、国際親善で世界各地へグループで行かれている由で、どなたかビデオで撮ってくださると有難いとおっしゃっておられました。次はモンゴルの結婚式に合わせて8月に行かれる由。国内でも全国大会で今年高知で夏行われるとか。うまく密着取材すればよい作品になるかも知れません。くわしくは岡本会員に伺ってください。

■第一回ビデオメールコンテスト入賞発表
佳作 竿灯の技 西村光雄さん
入賞 笑い合う 有村 博さん

入賞おめでとうございます。栄えある第一回インターネットコンに大阪から3名中2名が入賞されて本当に良かったです。

■ワイド派、ハイビジョン派増える

今度の橋本撮影会では、14名参加のうち何と半分の7名がワイド画面で撮影されていました。従来はスタンダードの4対3の画面がほとんどだったのに対し、まさにこの変わりよう。6月例会では上総さんが、たった今まで編集していたというホヤホヤのハイビジョン作品を持参、そういえば、石垣さんも撮影会にソニーのハイビジョンカメラを持ってきていたと思い出しました。例会でハイビジョンもワイドも対応できる環境が出来たことが一つのきっかけになったと思いますが、時代の移り変わりの早さには驚くものがあります。

但し、ハイビジョン映像は、そのままでは映像フェスティバルには難しく、DVに落とさざるを得ないという現実が残ります。HDV作品は書記担当のカメラに録画出来ないの、後でコメントを書くときに困ります。これからHDV作品出品者はDVにダウンコンバートしたテープを書記担当者に渡すようにしましょう。

作品研究会レポート

偶数月に開催している作品研究会は、今

回は秋の映像フェスティバルに向けた作品を主に持ってきて頂きました。出席者16名作品8本でした。

■上映作品

1. ネパールの混迷(ゼネストの日)

西村光雄さん 12分00秒

2月の作品研究会で出品された「ネパールの苦悩・マオイスト」10分の作品を皆さんの助言を頂いて作り直されたという作品。前作より2分長く、説明を長くして判り易くしたとのこと。題名も変えられました。難しいテーマを何とか判ってほしいとの思いが伝わってきます。

2. 古道ロマン

安居利次さん 9分10秒

かつてのOMC撮影会「熊野古道」の映像を活用して再構成されたもの。平成11年だったので、あれから6年も経ったのかと年月の経つのが早いなと感じ入りながら懐かしく拝見しました。

3. 一日限りの立山

吉岡貞夫さん 13分30秒

奈良県御所市、天満宮例祭に、毎年、町の若者たちが等身大より大きな人形をつくり、奉納されます。その人形の製作過程をくわしく取材されてまとめられています。

ご努力の感じられる作品ですが、動きが少ない対象だけに色々意見がでました。

4. 京都・下鴨さんに春が来た

奥 宏さん 4分40秒

研究会らしく話題いっぱい作品でした。題名についての意見、季節感について或いは、もう少し絞った方が色が引き締まるのではないかな等、参考にすべき助言がありました。

5. ちんどん・ふれあい

岡本至弘さん 13分30秒

東大阪市のふれあい祭りのパレードの様子を撮ったもの。パトنگールから始まって楽隊、よさこい、盆踊り、最後にちんどん屋さんのグループがあつてエンド。こうした催しの撮影、編集等の助言がありました。

6. 高野山水行(ハイビジョン)

前田茂夫さん 9分36秒

毎年1月最終日曜日には信者さんの水行がありカメラマンが大勢場所取りしているとか。カメラを構えた位置から動けずに撮

影するのも大変だったと思います。雪が降っていなかったのが残念だった由。色々な意見が出ましたので手直しされると、きっと良い作品になると思います。

7. 万灯供養 (ワイド)

江村一郎さん 6分40秒

昨年8月例会で発表された同名同場所での作品。ろうそくの火のアップ等江村さんらしさの映像表現がにじみ出た作品でした。

8. 越後郷愁

合原一夫さん 6分50秒

2月研究会で構成比較のため作られた2案の作品を、皆さんのご意見を参考に1本にまとめた作品。今では現地にも行けない災害跡地があらためて偲ばれます。

6月例会のレポート

今年は空梅雨か、外はうだるような暑さの中、例会場は上着が欲しい程の涼しさ。

午後の研究会に引き続きの例会で、参加者は30名の多きに達しました。珍しく中尾さんが今年初めて出席されました。東京へ仕事で行かれている由。司会は有村氏、書記、合原氏、デッキ係は増池、河合の両氏、受付は渡辺氏と宮崎さんの担当で進行。

■出席者：有村、岩井、江藤、江村、岡本、奥、上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、中尾、西村、秦、華岡、前田、増池、松本、宮崎、森、森下、森田、安居、山本、吉岡、渡辺、鉄具、西井の以上30氏。

■上映作品 (今月の講評は合原会長です)

1. 花と彫刻展

増池 茂 6分20秒

毎年韮公園で行われていた「花と彫刻展」ですが、工事のため会場を港区八幡屋公園に移しての開催です。周りの風景が違っているので同じ催しでもイメージが大分違うようです。BGM 1曲に合わせてうまくまとめられています。

2. SLに魅せられて

奥 宏さん 6分50秒

京都梅小路のSLを遊園地の雰囲気でもとめられています。列車に乗って楽しむ親子連れ等の楽しい一日が伝わってきます。

機関車庫など重要文化財というのは初めて知りました。

3. 脱獄物語

安居利次さん 8分20秒

姉妹クラブのOVC課題コン「笑み」では別の題名で発表され優秀賞を受賞された作品ですが、今回は題名を変えられて作品のねらいを判り易くされています。網走刑務所はいまや観光名所になっていますが、8年前Hi8で撮られていた素材をこのほどDVで仕上げられたとか。ツアーで訪ねた刑務所跡の映像からこれだけの作品に仕上げられた腕前はさすが安居さんです。

4. 日吉大社

紙本 勝さん 12分20秒

天津市坂本にある日吉神社の祭礼を昨年と今年の2年がかりで撮影して完成された作品。さすが”お祭りの紙本さん”だけあって、入念な下調べと資料にもとづき、脚本を書いておられます。比較的近い近畿のお祭りで、こんなにも大がかりで華やかな祭りがあるとは知りませんでした。いい作品を見せてもらいました。

5. 疏水の桜 (SD-ワイド)

前田茂夫 4分20秒

ハイビジョンで撮った映像をDVに落として、どれ位画質が落ちるか、最初からDVで撮った映像と比べてどうか、というテストのためにつくられた作品。やはりハイビジョンそのものの映像にはかなわないが、公開映写会で映写するには充分イケルのでは、という結論でした。それにしても公開映写会でハイビジョンお投影できる明るいプロジェクターが安価で手に入る時代はいつ来るのでしょうか。

6. 津軽雪譜 (SD-ワイド)

河合源七郎さん 6分57秒

河合さんもうとうとうハイビジョンカメラ愛好者の仲間入りされたようです。今回の作品はハイビジョン映像をDVに落として持参されたもの。全編三味線と笛の淋しさを強調したBGMが使われています。画面の方はつらら、雪景、降雪等々で、静の世界です。気温マイナスの世界でよく撮ってこられたものと、そのご努力と熱意に脱帽の思いです。作品的にはBGMと共に何か厳しい寒さが伝わって来ないような印象を受けましたが音処理に課題があるのかもしれない。

7. 桜 (ワイド)

江村一郎さん 4分45秒

昨年の第44回 OMC 映像フェスティバル出品作品も「桜」で、このときは4対3の画面でしたが、今年はワイドで再挑戦。サクサクラのメロディーに合わせて、大和高田の川べり、通り抜けの八重桜、奈良平群三郷町の桜と3ヶ所で撮られたもの。江村さんらしくアップの画面の扱い、手持ちの移動撮影など、動きのない桜を動感のある映像に仕立てあげる術はさすがです。インサートの使い方にコツがあるのかも知れません。

8. 全日本武道演武大会 (ワイド)

鉄具嘉夫さん 8分50秒

京都の武道館で昨年撮られた記録。友だちの方が出演なさるといことで撮影に行かれた由。弓道、居合、なぎなた、刀、等々、いろんな「形」の演技が披露されます。観客席からの一定場所からの制約された位置からの撮影で、カットに変化が少ないのはある程度仕方ないかも知れませんが、観客や道具などの近景をインサートするなど変化をもたせたいものです。また、後で友人の「形」についての解説なり見方、ポイント等をインタビューされ、声を映像にかぶせるのも一つの方法です。

9. 桜散り初め (ハイビジョン・SONY)

上総修一郎さん 6分00秒

上総さんも遂にハイビジョンに取り組みられました。編集ホヤホヤのテープをカメラ持参で持ってきて頂きました。ライトアップされた夜桜、朝霧、日の出、雪を頂く富士山等々美しい映像の後、久保田万太郎の俳句が出たところで何故かストップしてしまいました。パソコンからDVに書き出すときに、うまくいかなかったとか、ハイビジョンは荷が重いという作者の言葉に実感がこもっていました。ハイビジョンも編集段階、上映段階で何かと課題があるようです。次回作に期待しましょう。

10. 初夏を楽しむ

有村 博さん 6分23秒

2、3年前、富良野と美瑛に行って撮ってこられた映像を再編集して作ってみましたとの作者の弁があって上映開始。美しい花が咲き乱れる北海道の花のある風景は見事というほかありません。PIP も多様されて変化をもたせてあります。きれいな映像でしたが、題名に”楽しむ”をつけるなら

楽しむ主人公(作者か観光客か)をもっと前面に出した方がよいのではと思いました。

11. 印パ国境 ラクダ紀行

山本正夢さん 8分45秒

山本さんの作品は、いつも期待感一杯です。今回は印度パキスタン国境の紛争の絶えないところを、ラクダに乗って旅をするというものでした。インドのタール砂漠の砂丘で滑って遊ぶ子供たち、すごい数のラクダの隊商、生活する現地の人たちなど山本さんならではの珍しい場面が続きました。ジの手術の後だったのでラクダに乗るのはシンドかったという作者のコメントがありました。異国情緒たっぷりの楽しい作品でしたが、ラストのまとめ方に少し疑問が残りました。落陽とラクダのシルエットあたりで END にした方が余韻が残って良かったように思いました。

12. 神戸ルミナリエ

森 保信さん 5分51秒

神戸大震災後に行われたルミナリエのVHS映像を、あらためてローランドのV5を使って再編集した作品とか。神戸の夕方の画面から点灯の瞬間、そして暗くなるからのルミナリエの灯りをオーバーラップや特殊な画面転換を使って幻想的に仕上げておられます。従来の森作品からは想像できない編集時の脱皮には驚きました。映像は少しオーバー気味の灯りと古いVHSの映像で残念でしたが、DVによって今度は適正絞りで再挑戦されたら如何でしょう。

13. みちのく義経紀行

西井 学さん 5分30秒

東北平泉の義経の足跡をたどる、という守山ビデオクラブの撮影旅行で行かれたときの作品とのこと。何故か能舞台の場面だけがワイドで撮っておられました。平泉のあと弘前の城と桜、ねぶた会館でのねぶたの出しもの等、義経以外のにも色々と内容の多彩な映像で楽しく拝見しましたが、題名の”義経”は、義経に的を絞った構成になっていないので、むしろ、無い方がよいのではないかと思います。撮影はしっかりしていて可也のベテランとお見受けしました。今後楽しみな方が登場されました。

■予告：8月8日(月)夜、幹事会開催
フェスティバルプログラム編成会議予定。